



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：イランで開催されたパレスチナ・ガザ関連国際会議 (3月5日付イラン紙)

抵抗の象徴であるパレスチナと残虐行為の被害者であるガザに関する国際会議 (International Conference on Palestina, Symbol of Resistance & Gaza, victim of Atrocities: 以下パレスチナ・ガザ関連国際会議) が当地にて開催された。5日付現地報道概要以下の通り。

1. 会議概要

3月5日付「イラン」紙は、「レバノン、シリア、アルジェリア、バハレーンを始めとした15カ国の国際会議が出席したほか、シャッターフ PIJ 事務局長、アブマルズーク・ハマス代表他が参加した。また、イラン側からはハメネイ最高指導者、アフマディネジャード大統領、シャーフルーディー司法権長、ラリジャニ国会議長のほか、政府高官が出席した。

2. ハメネイ最高指導者発言 (3月4日、同会議開会式にて)

- (1)パレスチナの被抑圧者を擁護する唯一の道は抵抗である。パレスチナ国民への支援及び救済は、全ムスリム諸国の絶対的な義務であり、今こそ全てのイスラム同胞が団結を図り、シオニズム体制に対する責任追及をすべきである。またこれまでの凄惨なガザ情勢をもたらしたシオニズム体制の政治指導者及び軍事指導者を裁判に訴追し、彼らに対し理性と正義により定められた刑罰を与えなければならない。
- (2)パレスチナ問題解決にむけたかつての協議は、全ての成果をもたらさなかった。むしろ米国及び英国はこのガン性腫瘍 (イスラエルを指すと思われる) を作りだし支持するという最大の罪を犯したのである。ブッシュ政権の政策変更をスローガンに掲げる新米国大統領ささえもイスラエル擁護の無条件公約につき発言している。これは米国政府によるテロ支援に他ならず、その政策はブッシュ前政権時のものと何も変わっていない。
- (3)ガザにおけるシオニズム体制の犯罪は、市民に対するジェノサイド、無辜の民の家屋破壊、学校やモスクの破壊など、凄惨を極めてい。ホロコーストはパレスチナの強奪のための言い訳である。

3. ラリジャニ国会議長

(シャルム・エル・シェイクにて開催されたガザ復興支援会議及びクリントン国務長官のイスラエル訪問を意図して) 米国はイスラエル支持に関する一連の国際会議及び同地域への高官派遣などによってパレスチナ国民の抵抗運動に変化を起こせると考えるべきではない。

4. その他バイ会談

3月5日付「イラン」紙は「3月4日、ハメネイ最高指導者は、本会後の傍ら、レバノン国会議長と会談を行い、レバノンを始めとした地域情勢につき意見交換を行った。また、アフマディネジャード大統領もアルジェリア、シリア、スーダン及びバハレーン国会議長と個別に会談を行った」と報じた。